



第3回前橋市アーバンデザインシンポジウム 「まち」を使うってこんなにもおもしろいを開催しました!

前橋市 都市計画部 市街地整備課

■はじめに

令和4年2月22日(火)に、第3回前橋市アーバンデザインシンポジウム「まち」を使うってこんなにもおもしろいを開催しました。

■基調講演

まず、お1人目にご講演いただいたのは、東京藝術大学准教授であり、アーバンデザインセンター大宮(UDCO)副センター長の藤村龍至様です。

タイトルは「みちからまちをデザインする」。愛知県岡崎市でのQURUWAプロジェクトや、さいたま市大宮区で実施されたおおみやストリートテラス(道路占用を活用した公共空間における社会実験)など、自身が手がけた公民連携型都市再生についてご講演いただきました。「前橋市中心市街地はまちの消費の場が少ない。消費の場を増やし、「歩ける」まちにする。公共空間の再整備を終えてどんな民間空間の再整備をしていくか?」など全国的な事例から前橋市について、お話いただきました。

お2人目にご講演いただいたのは、株式会社HAGISTUDIO代表取締役であり、建築家の宮崎晃吉様です。タイトルは「人の数だけあるまちの多様な姿」。自身が手がける東京・谷中を中心としたエリアリノベーションの取り組みでは、「まち=ホテル」と考え、宿泊施設や飲食店をエリアに点在させて、まちの回遊性の向上を図ったり、「まちまち眼鏡店」というまちの「ひと」にフォーカスしたローカルメディアの新たな取り組み、また、都市の中の森としての広場計画が進むしのため信用金庫前橋営業部のリノベーションについてもお話いただきました。

■まちのおしゃべり

「まちを使いまくるまちづくりプレイヤーたちによる、おもしろい“まち”のおしゃべり」

基調講演をいただいたお2人の講師に加えて、前橋まちなかのまちづくりプレイヤーとして、臼井敬太郎様(前橋工科大学建築学科講師)、日下田伸様(一般社団法人前橋デザインコミッション企画局長)、亦野高裕様(ぐんま家守合同会社代表社員)にご参加いただきました。公共空間の利活用における馬場川通りの社会実験の実施や、広瀬川沿いでのキッチンカーイベントをきっかけに始まったリノベーションの取り組み、また、大学の授業でのまちなかの歴史的建築物などの調査や、まちなかから撮る空のプロジェクトなど、多くの取り組みをご紹介いただきました。登壇者の様々な取り組みをもとに生まれたまちに対する思いや、課題など、お話いただきました。

■最後に

“まち”を使うってこんなにもおもしろい

たくさんの方々が前橋のまちを歩き、感じ、知ること。そこからわかるまちの魅力。人の魅力。

まちなかで過ごす時間が皆様にとってステキで豊かな時間となりますように。

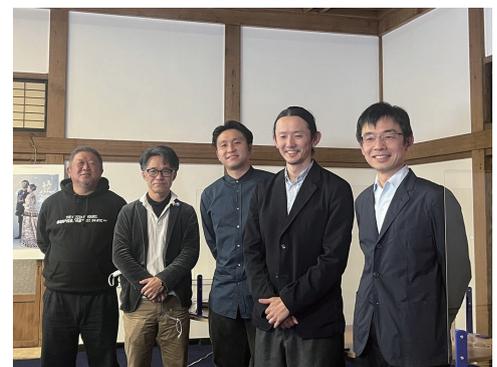
様々な形で、まちをたくさん使ってみてください!



会場は国指定重要文化財の臨江閣



基調講演の講師のお2人
(左:宮崎氏 右:藤村氏)



左から、亦野氏、日下田氏、宮崎氏、
藤村氏、臼井氏



まちのおしゃべりの様子